

平成 21 年に研究課題「イルカとコウモリに学ぶ新しい水中ソナー技術」で助成を頂きました。申請時はまだ大学の教員になって 1 年も経たない時で、慣れない研究費の申請に苦戦しながらも、採択結果を知った際はとても嬉しかったことを覚えています。自分の采配で利用できる研究費が頂けた、という感謝の気持ちと、自分がやりたいと思っていることに賛同くださる先生がいらっしゃるんだ、という自分の研究に対して自信がついた瞬間でした。

大学の教員になって 10 年が経ちました。今では日常的に何かの申請書を書くことが多いのですが、私自身、研究費の申請書を書くことが実は嫌いじゃないのかもしれないな、と最近思うようになってきました。採択の結果は置いておいて、それまで自分の頭のなかでぼんやり考えている夢や子供っぽい無邪気な好奇心で思いついたストーリーが、文章にしてそれを推敲することでだんだんとまとまってくる瞬間がとても好きなのだと思います。そして書いているうち、これはぜったいに面白い！という、ちょっとした“暗示”に自分がかかっていくのがわかります。仮説や過去の例にとらわれず、純粋に面白いな、やってみたいな、と思うことを書くように心がけています。もちろんその成果は社会に還元されて、科学に貢献できるものでなければいけません。ただ生き物を相手にする研究は、やってみないと何が起こるかわからないことがとても多く、思いもよらない結果がでることもよくあります。億劫になったり、過去の知見にとらわれすぎずに、まずはやってみよう、と思う気持ちを大事にして自分の夢を言葉にしたためるように、申請書を書く学生さんにはアドバイスするようにしています。何よりも研究を楽しむことが大事だと思うからです。

学生の立場で申請ができる研究費は今でもとても限られています。その意味でも、この笹川助成は非常に画期的で、研究者を目指そうとしている学生さんにはぜひチャレンジするように薦めるようにしています。チャンスは自分から取りにいかないと、やはり手には届きません。ぼんやりしている夢や、発散している今ある結果をもう一度、客観的に見つめなおすのに、第三者の先生方にも読んでいただくこのような研究費の申請書は、とても良い機会です。私自身も、これまでの大きな研究の流れは、こういったチャンスに自分の夢を文章にしたため、それを何度も推敲することによって、形づいてきた気がします。そして何よりも、その私の無邪気で無茶な夢に、これまで多くの学生さん達が一緒になって向かってくれたおかげで、これまで研究を続けることができました。さらにこの度、日本学術振興会賞というとても名誉のある賞も頂くことができ、本当に嬉しく思っています。この場をお借りして、お世話になった多くの皆様にお礼を申し上げたいと思います。ぜひ若い学生さんや研究者の皆さんには、自分オリジナルの夢を言葉にして綴るということ、このような研究費の申請の機会に楽しんで頂きたいな、と思います。